平成２３年度

第４回

県民アンケート調査報告書

「食の安全に関する県民意識と
食品事業者の認証制度について」

平成２４年１月

新潟県知事政策局広報広聴課

目　次

Ⅰ　調査の概要・・・

Ⅰ　調査の概要

１　調査項目

食の安全に関する県民意識と食品事業者の認証制度について

２　調査目的

県は「にいがた食の安全・安心基本計画」及び「新潟県健康福祉ビジョン」に基づく事業の一つとして、高度な食品衛生管理の手法であるHACCP（ハサップ）の考え方を取り入れた衛生管理を行っている食品加工施設等を県が認証する制度の創設に向けて準備を進めています。

今回のアンケート調査により、食の安全に関する県民意識や県認証制度のニーズなどを把握し、事業展開に活かしていきます。

３　調査期間

平成23年11月10日（木）～ 12月16日（金）

４　調査方法

郵送法

５　調査対象者

県民アンケート調査協力員（３５０人）

６　回答者数

２８８人（回収率８２．３％）

７　アンケート調査回答者の構成

		対象者		回答者		回収率（％）
		実数（人）	構成比（％）	実数（人）	構成比（％）	
		350	100.0	288	100.0	82.3
性別	男　　性	175	50.0	140	48.6	80.0
	女　　性	175	50.0	148	51.4	84.6
年齢別	２０～３９歳	106	30.3	75	26.0	70.8
	４０～５９歳	122	36.6	109	37.8	89.3
	６０～７９歳	122	33.1	104	36.1	85.2
地区別	下越地区	32	9.1	27	9.4	84.4
	新潟地区	136	38.9	109	37.8	80.1
	中越地区	102	29.1	81	28.1	79.4
	魚沼地区	26	7.4	22	7.6	84.6
	上越地区	44	12.6	39	13.5	88.6
	佐渡地区	10	2.9	10	3.5	100.0

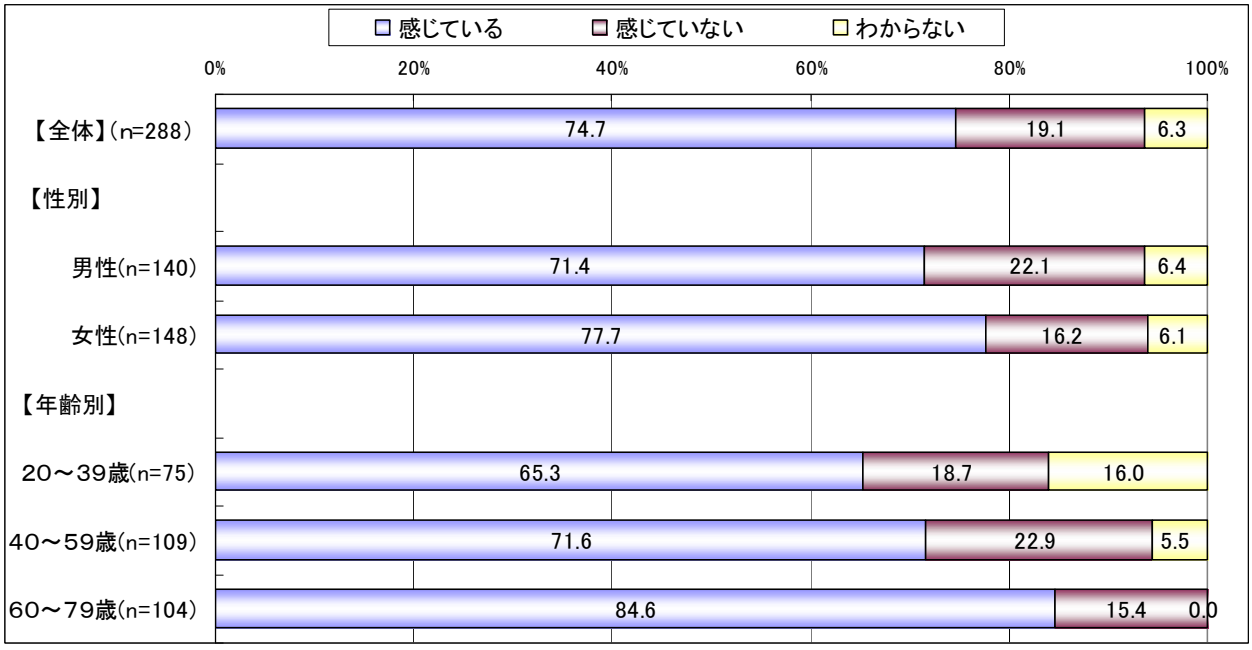
Ⅱ　調査結果の概要

１　食品の安全性に対する不安について

問１：あなたは、食品の安全性について不安を感じていますか。
（○は１つだけ）

n =288（単一回答）

	回答者数	割合
1.感じている	215人	74.7%
2.感じていない	55人	19.1%
3.わからない	18人	6.3%
全体	288人	100.0%



問１で「1. 感じている」と回答した方

問２：具体的にどのようなことに不安を感じていますか。（○は３つまで）

ｎ=215（複数回答）

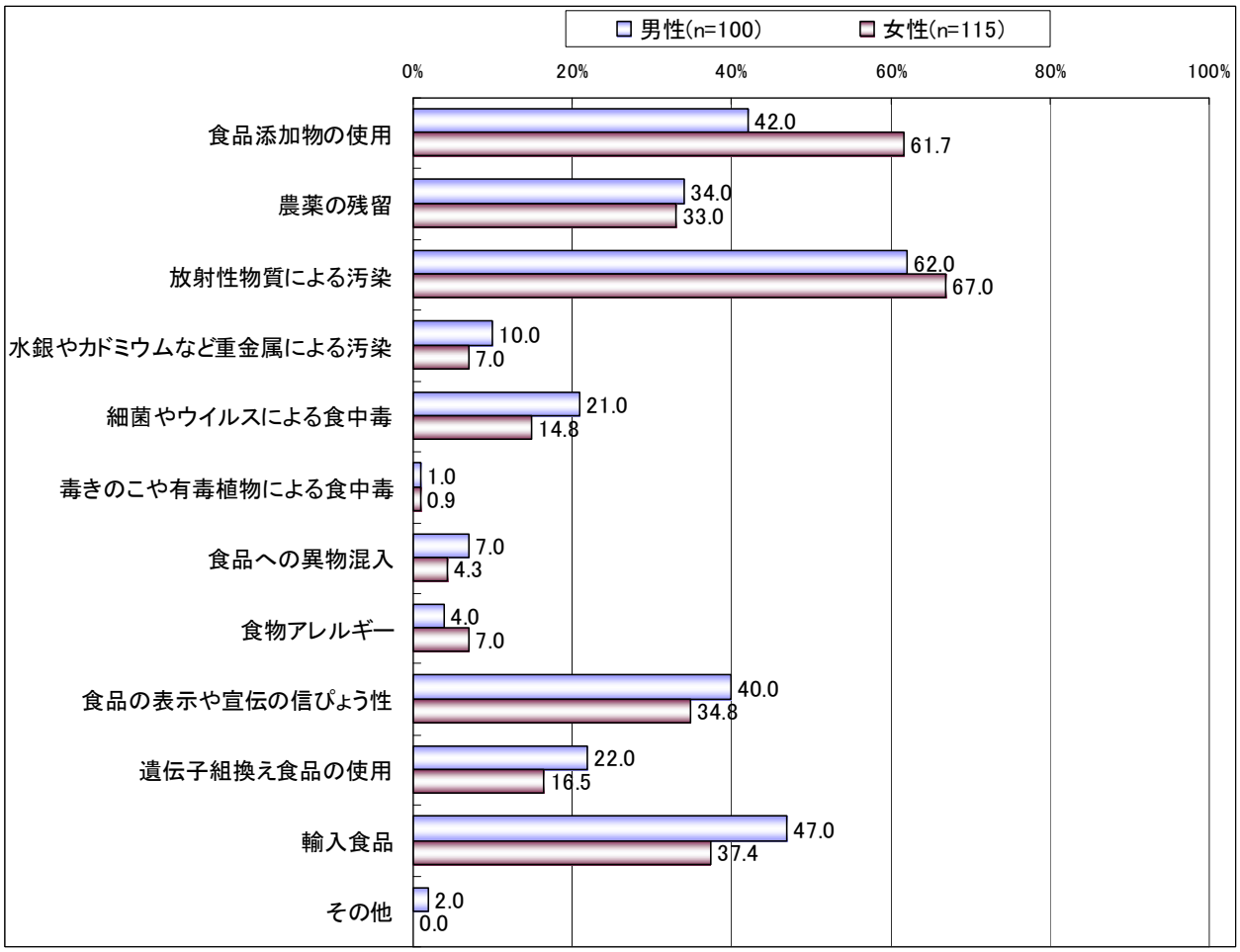
	回答者数	割合
1.食品添加物の使用	113人	52.6%
2.農薬の残留	72人	33.5%
3.放射性物質による汚染	139人	64.7%
4.水銀やカドミウムなど重金属による汚染	18人	8.4%
5.細菌やウィルスによる食中毒	38人	17.7%
6.毒きのこや有毒植物による食中毒	2人	0.9%
7.食品への異物混入	12人	5.6%
8.食物アレルギー	12人	5.6%
9.食品の表示や宣伝の信ぴょう性	80人	37.2%
10.遺伝子組換え食品の使用	41人	19.1%
11.輸入食品	90人	41.9%
12.その他	2人	0.9%
全体	215人	100.0%

「その他」回答

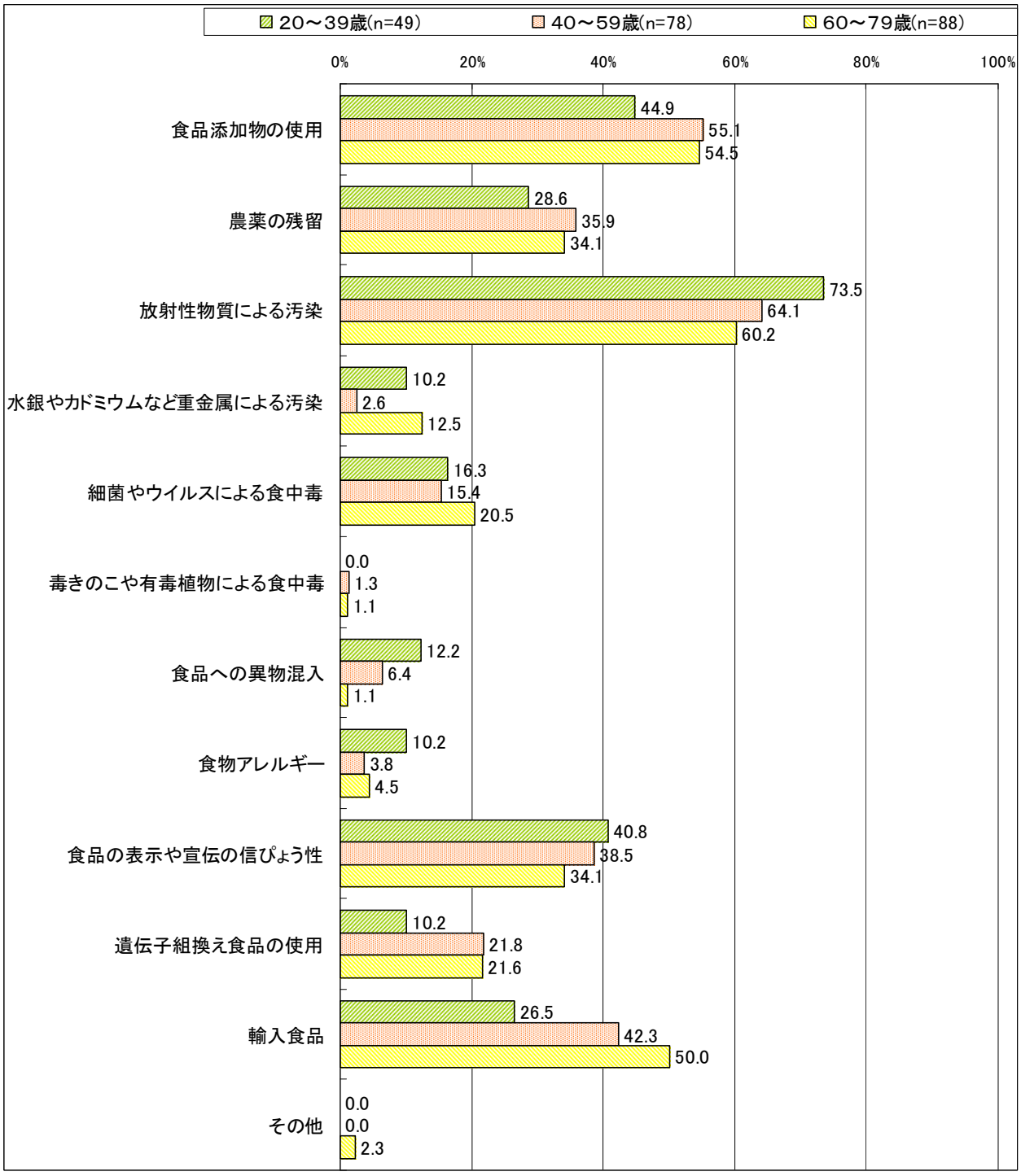
・輸入食品を増やす。TPPが一番恐い。

・複合汚染、例えば、残留農薬、化学肥料等の薬品に反応し、有害化合物の発生等。

性別


男性(n=100)
女性(n=115)
0%
20%
40%
60%
80%
100%
食品添加物の使用
42.0
61.7
農薬の残留
34.0
33.0
放射性物質による汚染
62.0
67.0
水銀やカドミウムなど重金属による汚染
10.0
7.0
細菌やウイルスによる食中毒
21.0
14.8
毒きのこや有毒植物による食中毒
1.0
0.9
食品への異物混入
7.0
4.3
食物アレルギー
4.0
7.0
食品の表示や宣伝の信ぴょう性
40.0
34.8
遺伝子組換え食品の使用
22.0
16.5
輸入食品
47.0
37.4
その他
2.0
0.0

年代別


20～39歳(n=49)
40～59歳(n=78)
60～79歳(n=88)
0%
20%
40%
60%
80%
100%
食品添加物の使用
44.9
55.1
54.5
農薬の残留
28.6
35.9
34.1
放射性物質による汚染
73.5
64.1
60.2
水銀やカドミウムなど重金属による汚染
10.2
2.6
12.5
細菌やウイルスによる食中毒
16.3
15.4
20.5
毒きのこや有毒植物による食中毒
0.0
1.3
1.1
食品への異物混入
12.2
6.4
1.1
食物アレルギー
10.2
3.8
4.5
食品の表示や宣伝の信ぴょう性
40.8
38.5
34.1
遺伝子組換え食品の使用
10.2
21.8
21.6
輸入食品
26.5
42.3
50.0
その他
0.0
0.0
2.3

２　加工食品の購入に関する消費者の意識について

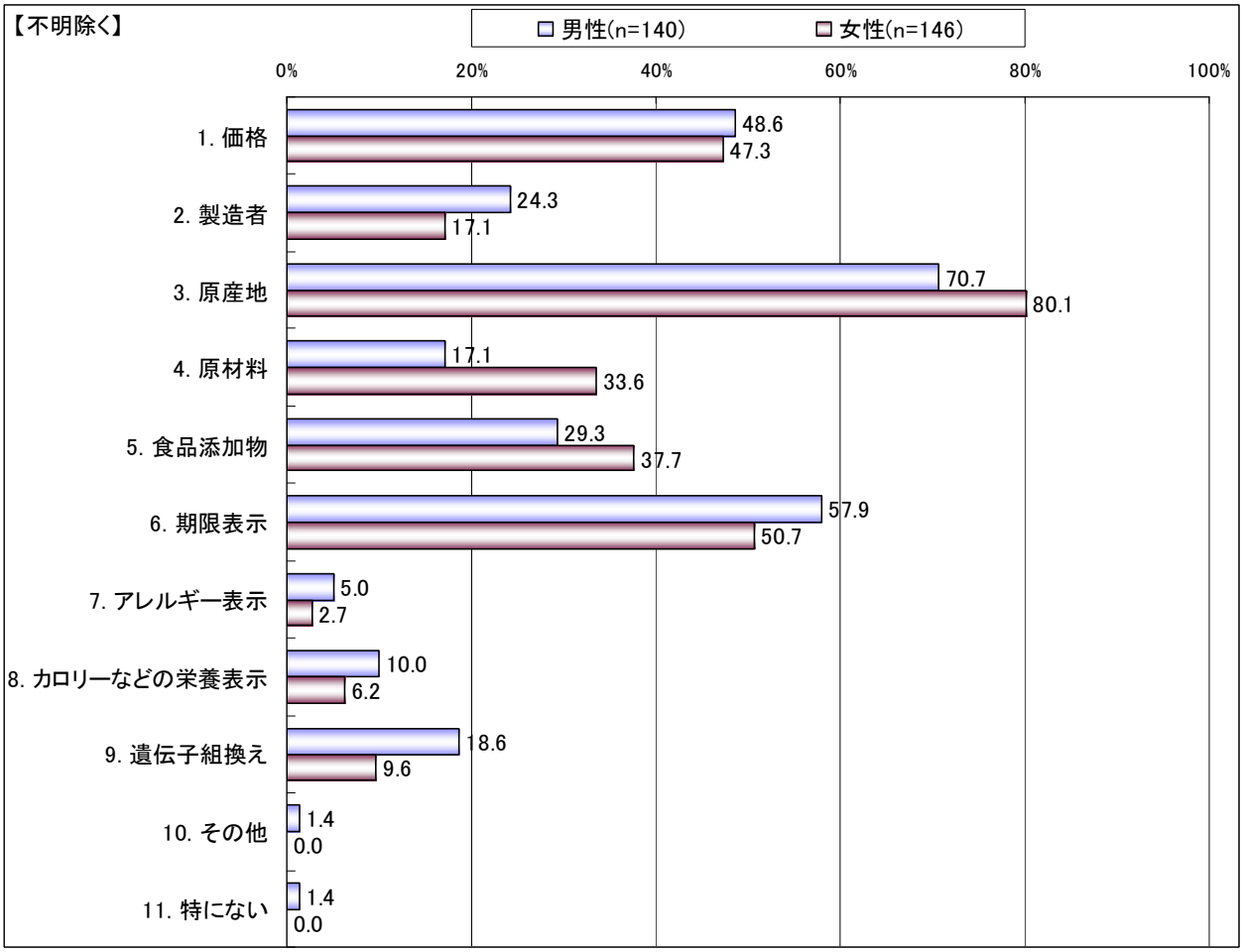
問３：加工食品を購入する際、どの表示事項を重視していますか。
（○は３つまで）

n =288（複数回答）

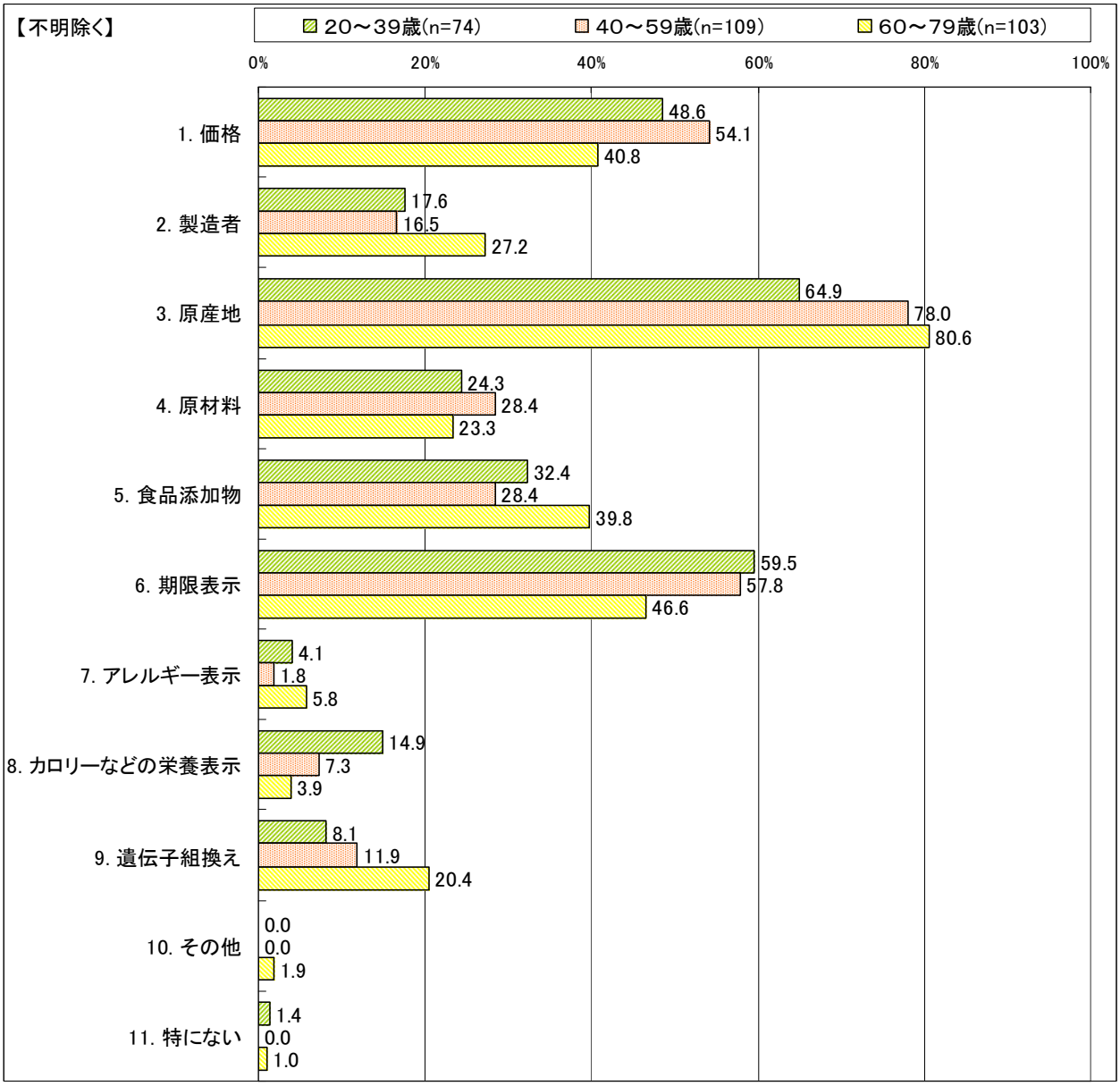
	回答者数	割合
1. 価格	137 人	47.6%
2. 製造者	59 人	20.5%
3. 原産地	216 人	75.0%
4. 原材料	73 人	25.3%
5. 食品添加物	96 人	33.3%
6. 期限表示	155 人	53.8%
7. アレルギー表示	1 人	3.8%
8. カロリーなどの栄養表示	23 人	8.0%
9. 遺伝子組換え	40 人	13.9%
10. その他	2 人	0.7%
11. 特にない	2 人	0.7%
不明	2 人	0.7%
全体	288 人	100.0%

「その他」回答
・味がどうか重視する。
・国産品

性別


【不明除く】
男性(n=140)
女性(n=146)
0%
20%
40%
60%
80%
100%
1. 価格
48.6
47.3
2. 製造者
24.3
17.1
3. 原産地
70.7
80.1
4. 原材料
17.1
33.6
5. 食品添加物
29.3
37.7
6. 期限表示
57.9
50.7
7. アレルギー表示
5.0
2.7
8. カロリーなどの栄養表示
10.0
6.2
9. 遺伝子組換え
18.6
9.6
10. その他
1.4
0.0
11. 特にない
1.4
0.0

年代別

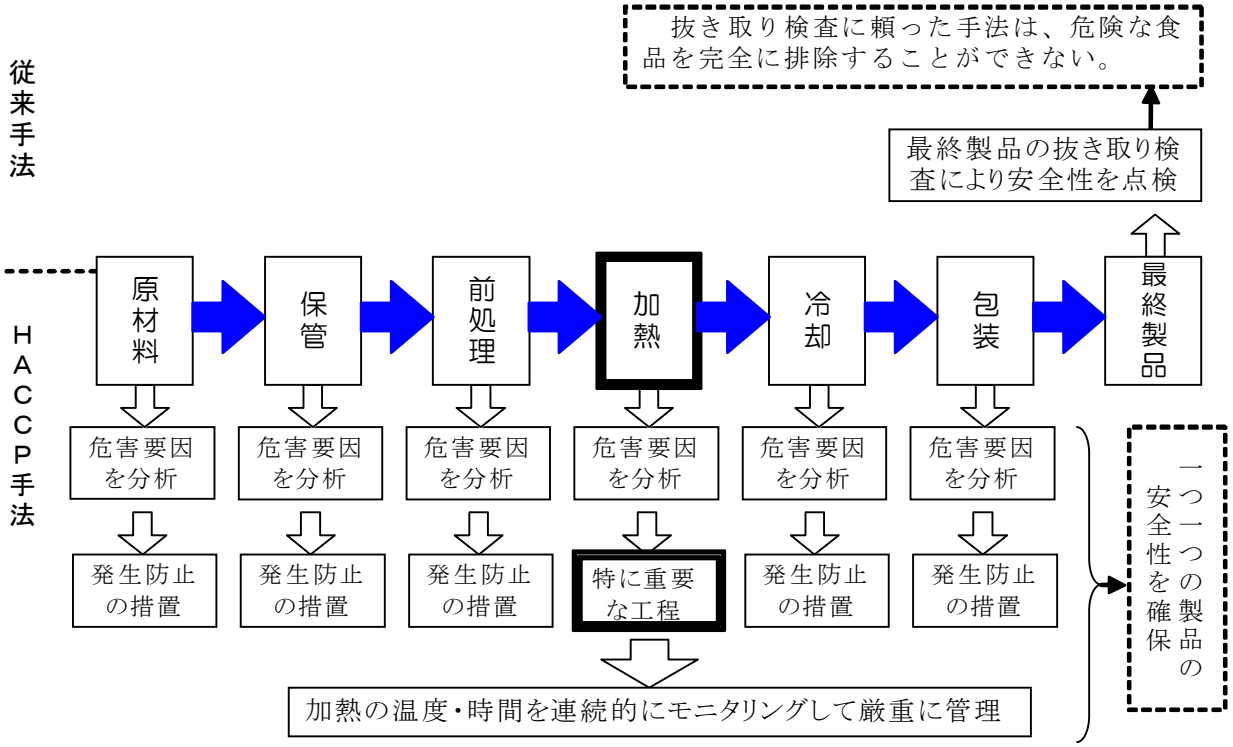

【不明除く】
20～39歳(n=74)
40～59歳(n=109)
60～79歳(n=103)
0%
20%
40%
60%
80%
100%
1. 価格
48.6
54.1
40.8
2. 製造者
17.6
16.5
27.2
3. 原産地
64.9
78.0
80.6
4. 原材料
24.3
28.4
23.3
5. 食品添加物
32.4
28.4
39.8
6. 期限表示
59.5
57.8
46.6
7. アレルギー表示
4.1
1.8
5.8
8. カロリーなどの栄養表示
14.9
7.3
3.9
9. 遺伝子組換え
8.1
11.9
20.4
10. その他
0.0
0.0
1.9
11. 特にない
1.4
0.0
1.0

３　HACCPの認知度等について

問４：安全な食品を製造するための衛生管理の手法として、HACCP（注①）という手法があります。「HACCP」という言葉と内容をご存知でしたか。（○は１つだけ）

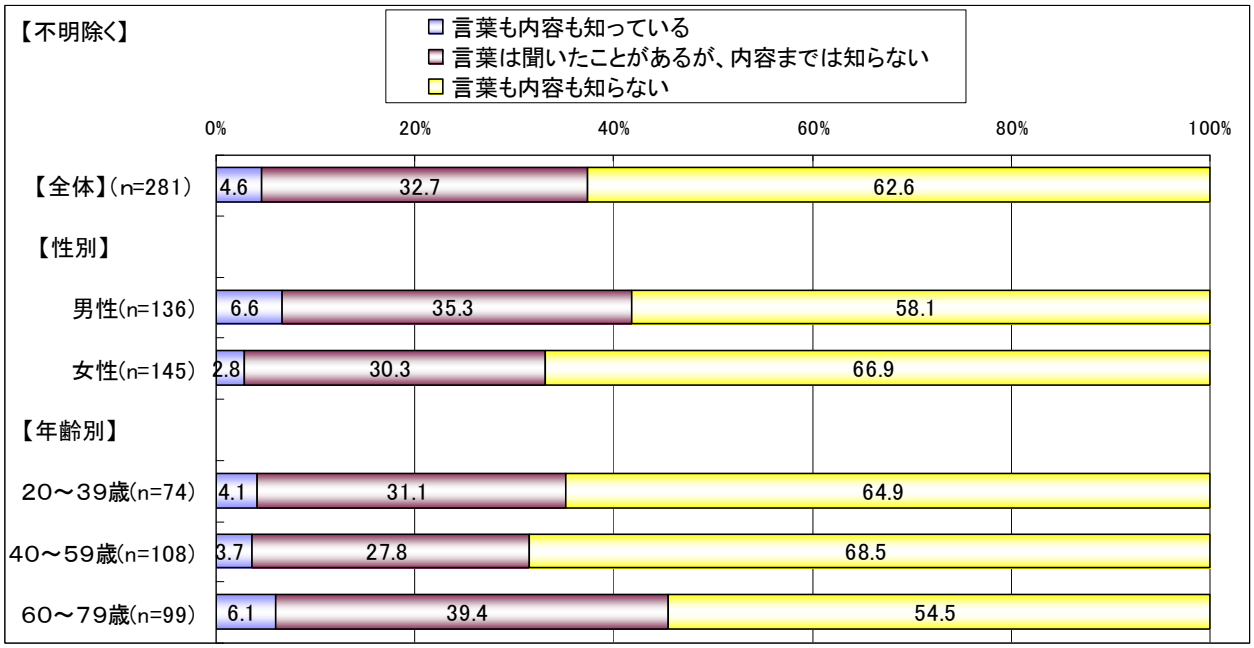
注①　ハサップ、ハセップ、ハシップなどと読みます。正式名は「Hazard Analysis and Critical Control Point」で、日本語では「危害要因分析重要管理点」などと訳されます。
原材料から最終製品に至るすべての工程で微生物汚染や異物混入等の危害要因を分析し、特に重要な工程を連続的に管理することにより、一つ一つの製品の安全性を確保する手法です。

【従来の衛生管理手法とHACCP手法の違い】



n =288 （単一回答）

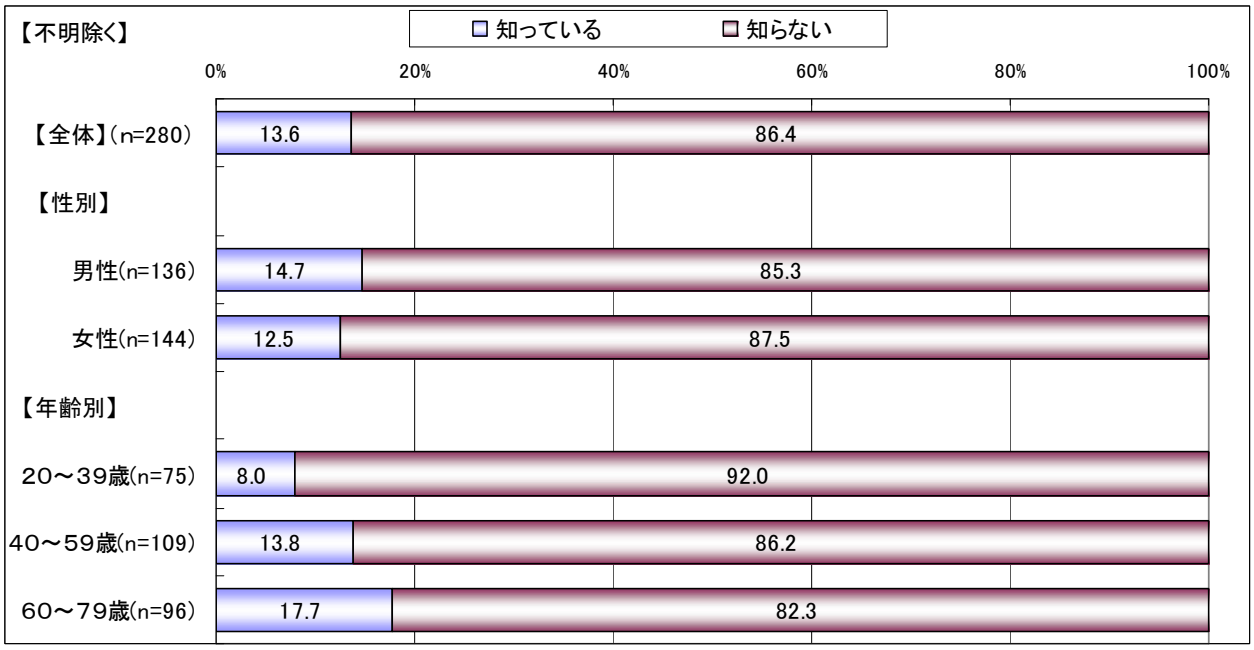
	回答者数	割合
1. 言葉も内容も知っている	13 人	4.5%
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	92 人	31.9%
3. 言葉も内容も知らない	176 人	61.1%
不明	7 人	2.4%
全体	288 人	100.0%



問５：厚生労働省は、HACCPの考え方を取り入れて牛乳や食肉製品などを製造している施設に対し厚生労働大臣が承認を与えるという制度を設けています。（制度の名称は「総合衛生管理製造過程の承認制度」といいます。）
厚生労働省によるこの承認制度をご存知ですか。（○は１つだけ）

n =288（単一回答）

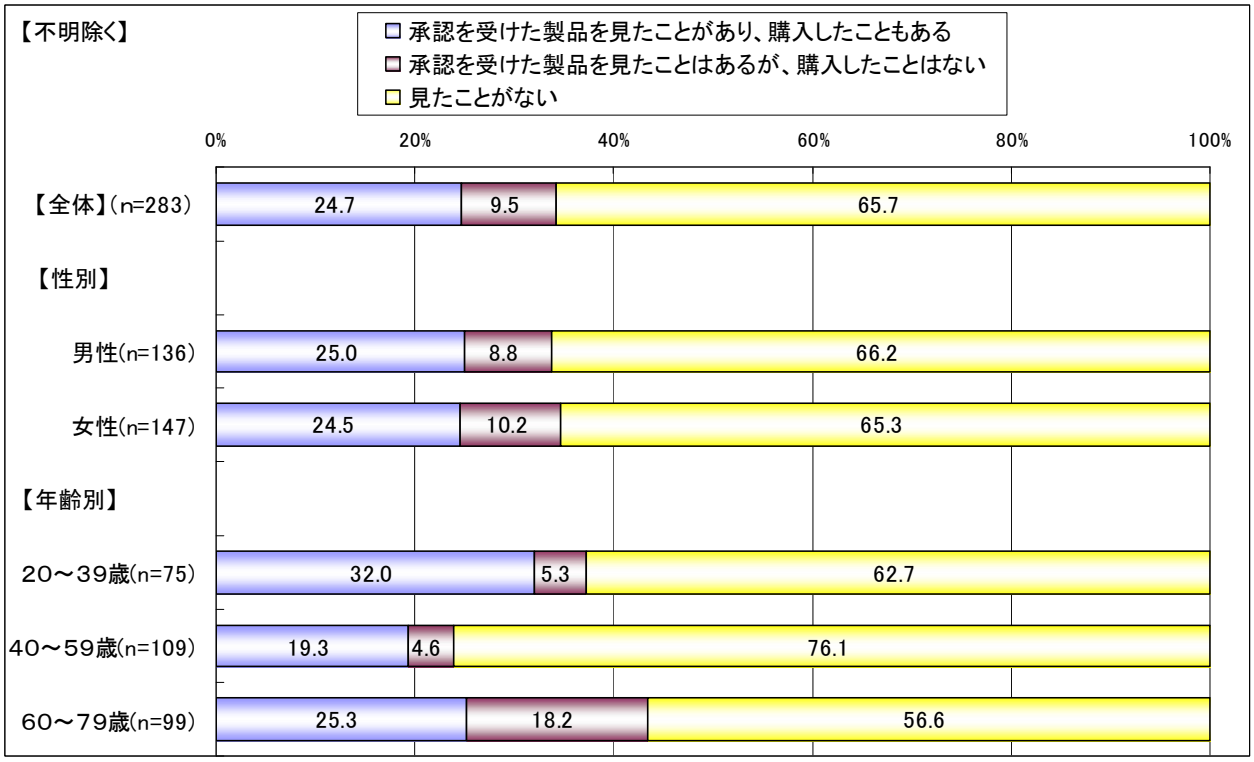
	回答者数	割合
1. 知っている	38 人	13.2%
2. 知らない	242 人	84.0%
不明	8 人	2.8%
全体	288 人	100.0%



問６：問５の承認を受けて製造された製品には、「承認を受けている」旨の説明文や、右図のようなマークが表示されています。
　承認を受けた製品を見たり、購入したりしたことはありますか。（○は１つだけ）

n =288（単一回答）

	回答者数	割合
1. 承認を受けた製品を見たことがあり、購入したこともある	70 人	24.3%
2. 承認を受けた製品を見たことはあるが、購入したことはない	27 人	9.4%
3. 見たことがない	186 人	64.6%
不明	5 人	1.7%
全体	288 人	100.0%



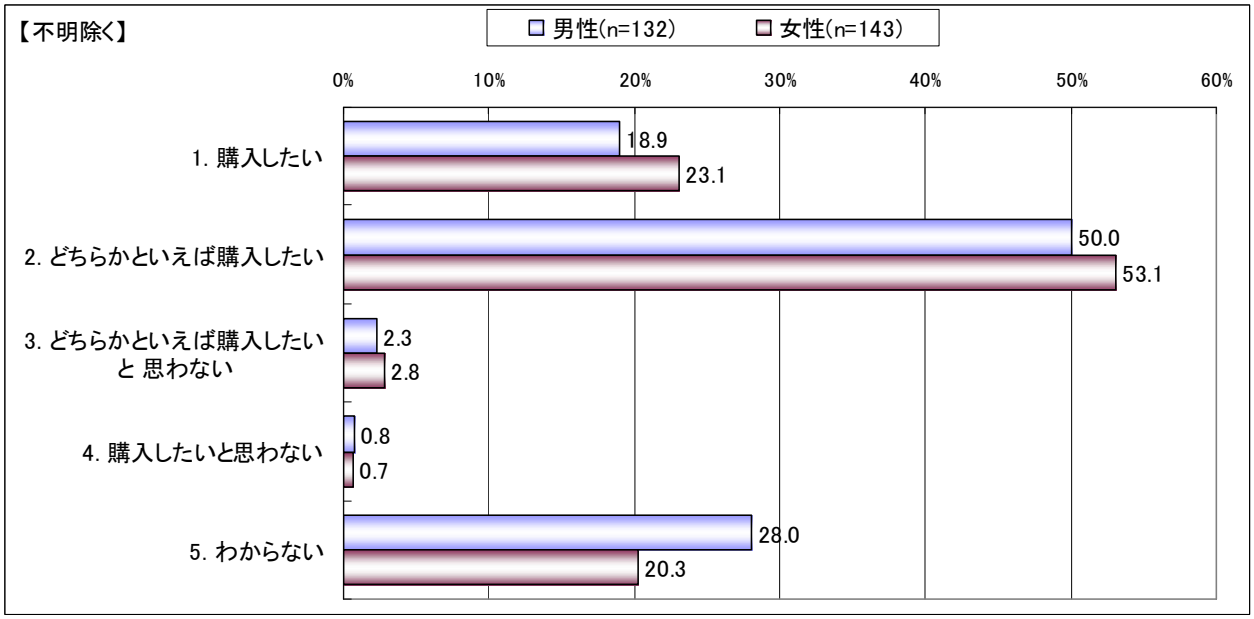
問７：事業者による食品の安全管理について外部機関が評価・認証する制度として、問５で記載した厚生労働省の制度の他に、国際標準化機構によるISO22000の制度や、東京都など一部の自治体が独自に設けた制度があります。

このような行政などの第三者機関による評価・認証を受けた食品を購入したいと思いますか。（○は１つだけ）

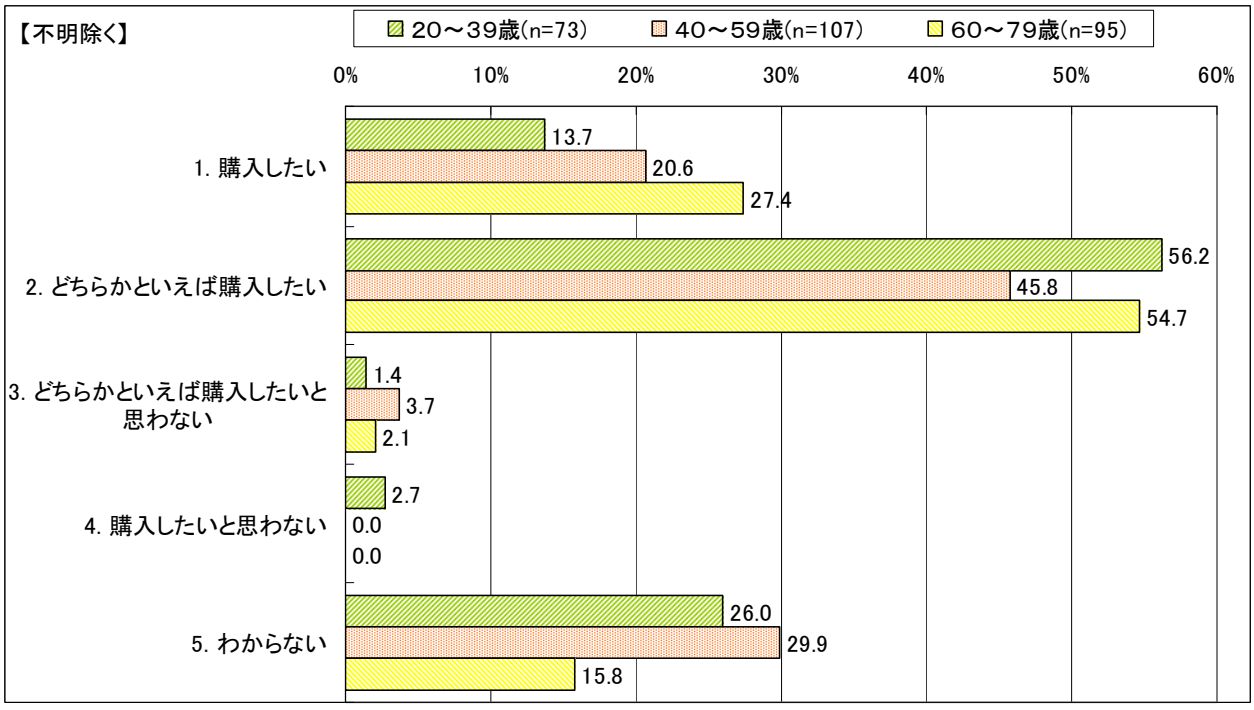
ｎ＝288（単一回答）

	回答者数	割合
1. 購入したい	58 人	20.1%
2. どちらかといえば購入したい	142 人	49.3%
3. どちらかといえば購入したいと思わない	7 人	2.4%
4. 購入したいと思わない	2 人	0.7%
5. わからない	66 人	22.9%
不明	13 人	4.5%
全体	288 人	100.0%

性別


【不明除く】
男性(n=132)
女性(n=143)
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
1. 購入したい
18.9
23.1
2. どちらかといえば購入したい
50.0
53.1
3. どちらかといえば購入したいと 思わない
2.3
2.8
4. 購入したいと思わない
0.8
0.7
5. わからない
28.0
20.3

年代別


【不明除く】
20～39歳(n=73)
40～59歳(n=107)
60～79歳(n=95)
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
1. 購入したい
13.7
20.6
27.4
2. どちらかといえば購入したい
56.2
45.8
54.7
3. どちらかといえば購入したいと思わない
1.4
3.7
2.1
4. 購入したいと思わない
2.7
0.0
0.0
5. わからない
26.0
29.9
15.8

４　認証制度の導入について

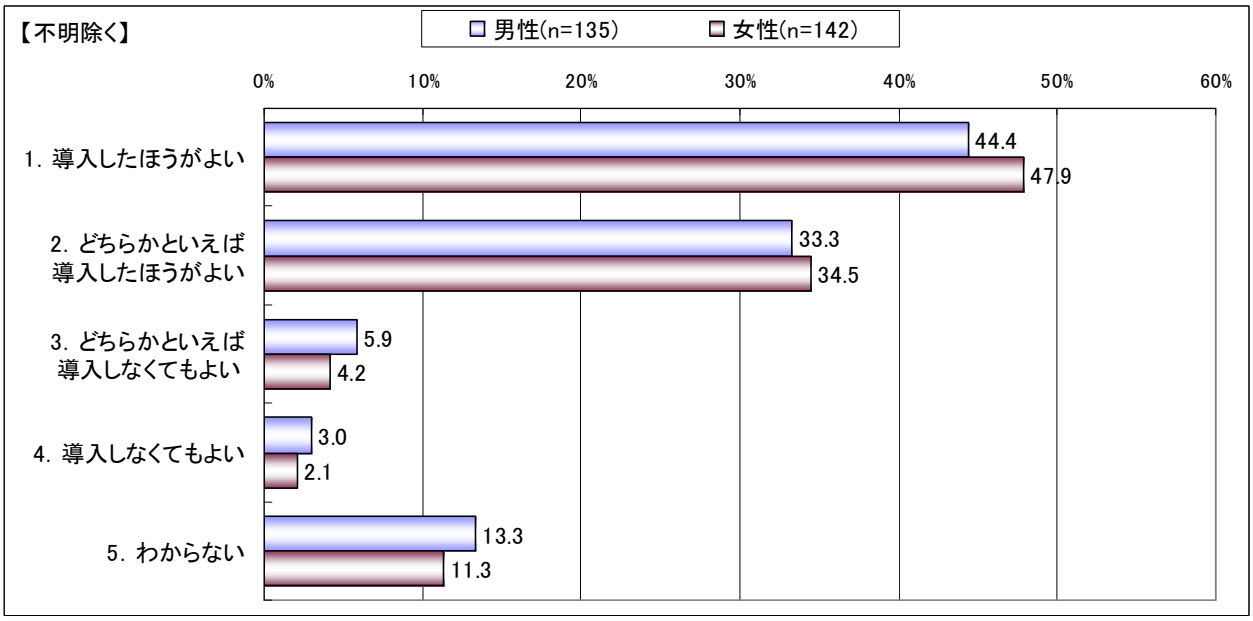
問８：食品事業者の中には、HACCPの考え方に基づく高度な衛生管理や、企業倫理を高める活動、情報公開の推進、食品のトレーサビリティシステム（注②）の構築など、食の安全・安心を確保するためのさまざまな取組を自主的に実践している事業者があります。
　県では、これらの取組を実践している県内事業者を県が認証し、消費者に情報発信するという制度の導入を検討しています。
　このような県による認証制度の導入についてどう思いますか。
（○は１つだけ）

注②　食品のトレーサビリティシステム
　食品の生産、加工、流通などの各段階で原材料の仕入先や販売先などを記録し、食品に何らかの問題が発生した場合、迅速に流通範囲を特定したり問題食品を回収したりできるようにすることをいいます。

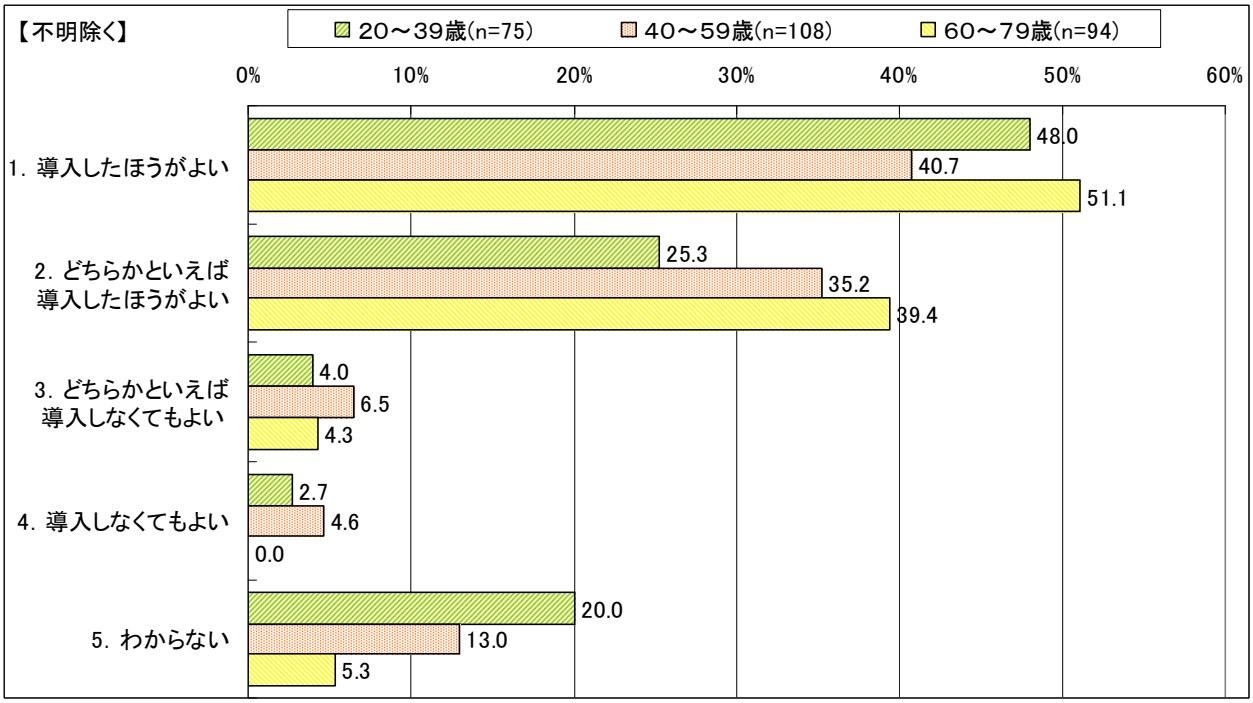
ｎ＝288（単一回答）

	回答者数	割合
1. 導入したほうがよい	128 人	44.4%
2. どちらかといえば導入したほうがよい	94 人	32.6%
3. どちらかといえば導入しなくてもよい	14 人	4.9%
4. 導入しなくてもよい	7 人	2.4%
5. わからない	34 人	11.8%
不明	11 人	3.8%
全体	288 人	100.0%

性別



年代別


【不明除く】
20～39歳(n=75)
40～59歳(n=108)
60～79歳(n=94)
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
1. 導入したほうがよい
48.0
40.7
51.1
2. どちらかといえば
導入したほうがよい
25.3
35.2
39.4
3. どちらかといえば
導入しなくてもよい
4.0
6.5
4.3
4. 導入しなくてもよい
2.7
4.6
0.0
5. わからない
20.0
13.0
5.3

問８で「1. 導入したほうがよい」「2. どちらかといえば導入したほうがよい」と答えた方

問９：事業者によるどのような取組を認証の対象としたらよいと思いますか。
（〇は３つまで）

n =222（複数回答）

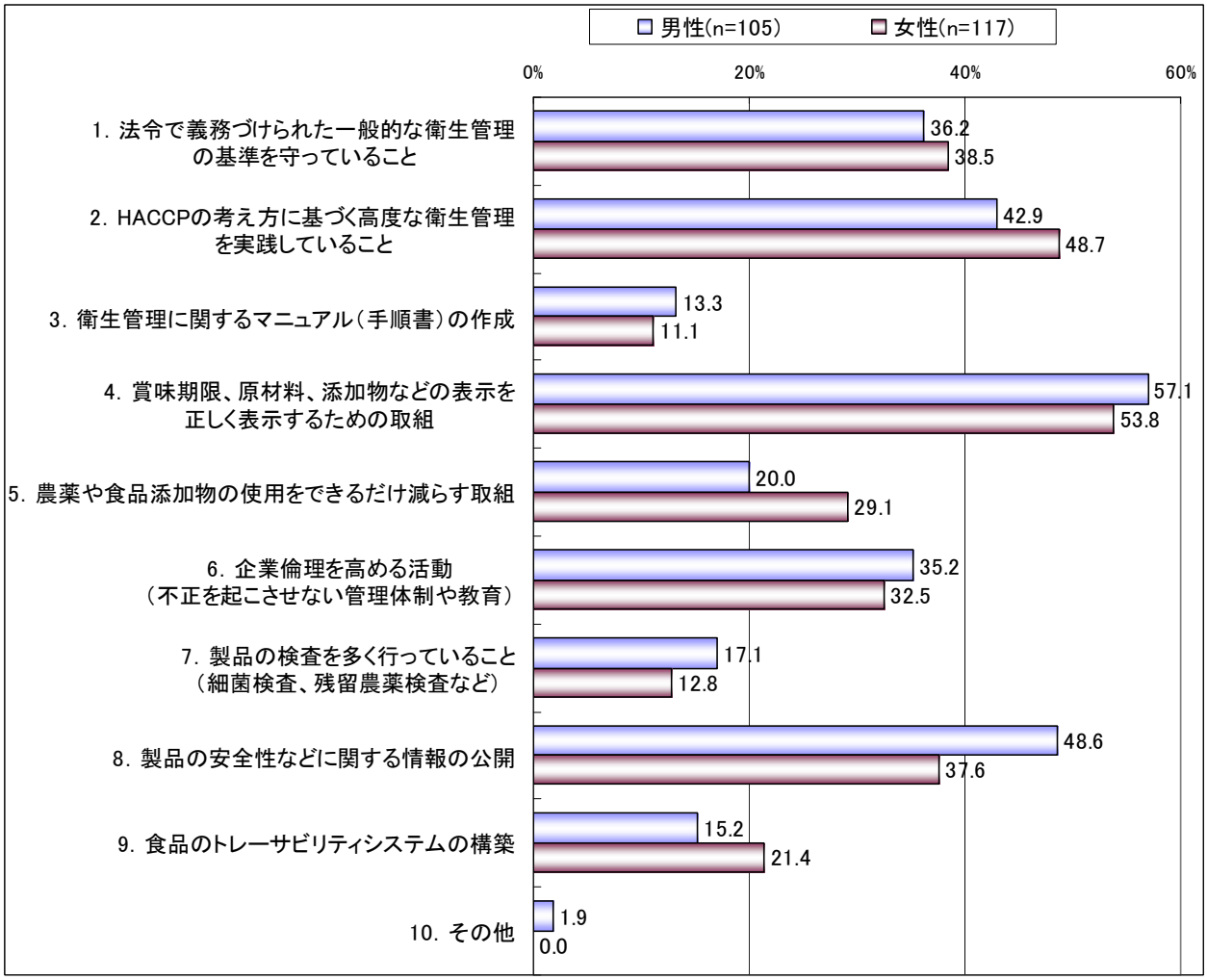
	回答者数	割合
1. 法令で義務づけられた一般的な衛生管理の基準を守っていること	83 人	37.4%
2. HACCP の考え方に基づく高度な衛生管理を実践していること	102 人	45.9%
3. 衛生管理に関するマニュアル（手順書）の作成	27 人	12.2%
4. 賞味期限、原材料、添加物などの表示を正しく表示するための取組	123 人	55.4%
5. 農薬や食品添加物の使用をできるだけ減らす取組	55 人	24.8%
6. 企業倫理を高める活動（不正を起こさせない管理体制や教育）	75 人	33.8%
7. 製品の検査を多く行っていること（細菌検査、残留農薬検査など）	33 人	14.9%
8. 製品の安全性などに関する情報の公開	95 人	42.8%
9. 食品のトレーサビリティシステムの構築	41 人	18.5%
10. その他	2 人	0.9%
全体	222 人	100.0%

「その他」回答

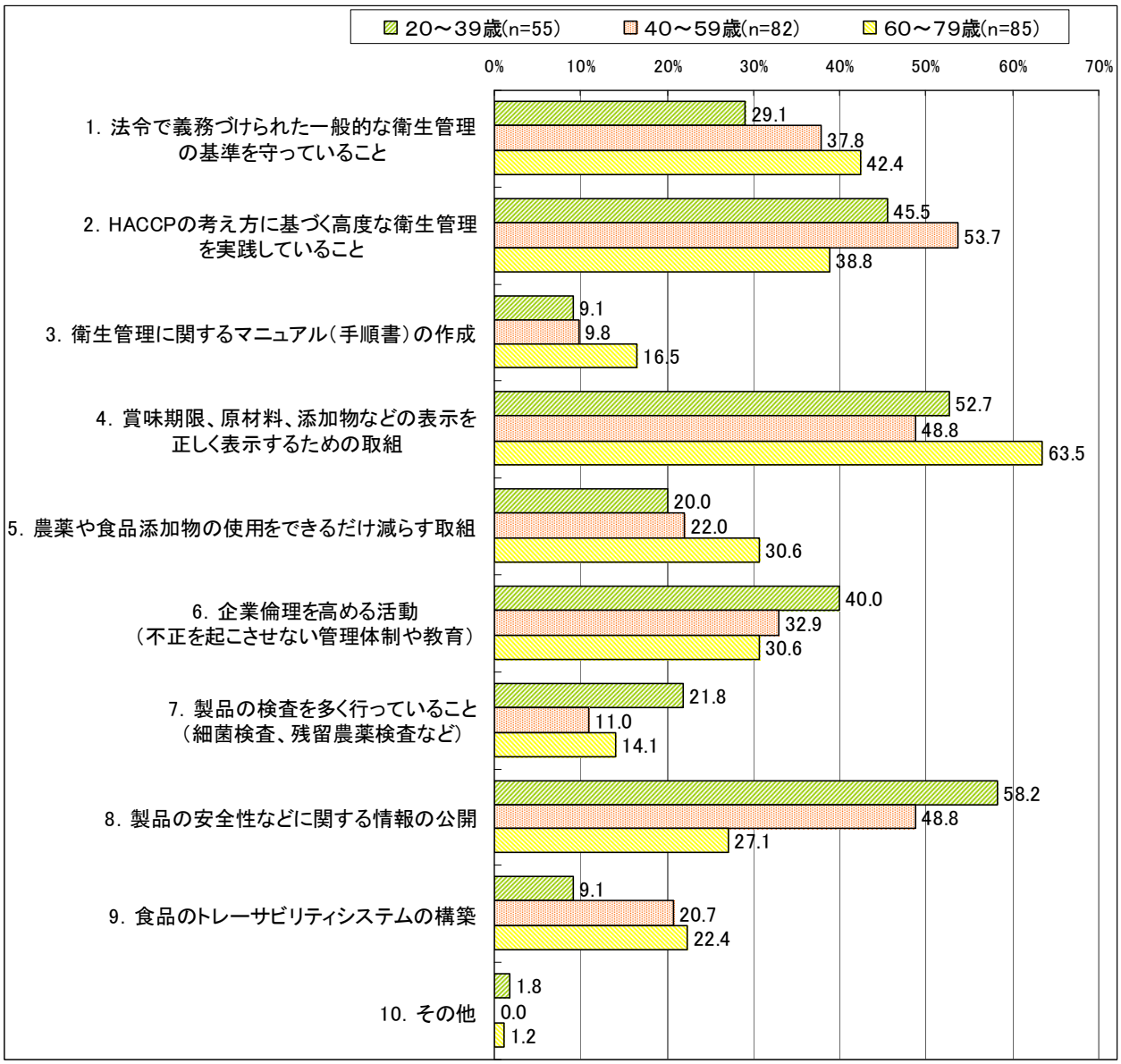
・できれば上記の全て。

・PB製品の真の製造者名の記載及び生産国、加工品も今後は特に必要と思います。

性別


男性(n=105)
女性(n=117)
0%
20%
40%
60%
1. 法令で義務づけられた一般的な衛生管理の基準を守っていること
36.2
38.5
2. HACCPの考え方に基づく高度な衛生管理を実践していること
42.9
48.7
3. 衛生管理に関するマニュアル（手順書）の作成
13.3
11.1
4. 賞味期限、原材料、添加物などの表示を正しく表示するための取組
57.1
53.8
5. 農薬や食品添加物の使用をできるだけ減らす取組
20.0
29.1
6. 企業倫理を高める活動（不正を起こさせない管理体制や教育）
35.2
32.5
7. 製品の検査を多く行っていること（細菌検査、残留農薬検査など）
17.1
12.8
8. 製品の安全性などに関する情報の公開
48.6
37.6
9. 食品のトレーサビリティシステムの構築
15.2
21.4
10. その他
1.9
0.0

年代別


20～39歳(n=55)
40～59歳(n=82)
60～79歳(n=85)
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
1. 法令で義務づけられた一般的な衛生管理の基準を守っていること
29.1
37.8
42.4
2. HACCPの考え方に基づく高度な衛生管理を実践していること
45.5
53.7
38.8
3. 衛生管理に関するマニュアル（手順書）の作成
9.1
9.8
16.5
4. 賞味期限、原材料、添加物などの表示を正しく表示するための取組
52.7
48.8
63.5
5. 農薬や食品添加物の使用をできるだけ減らす取組
20.0
22.0
30.6
6. 企業倫理を高める活動（不正を起こさせない管理体制や教育）
40.0
32.9
30.6
7. 製品の検査を多く行っていること（細菌検査、残留農薬検査など）
21.8
11.0
14.1
8. 製品の安全性などに関する情報の公開
58.2
48.8
27.1
9. 食品のトレーサビリティシステムの構築
9.1
20.7
22.4
10. その他
1.8
0.0
1.2

５　食の安全・安心等に関する自由意見（抜粋）

問１０：食の安全・安心を確保するための県の取組などについて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。（自由記載）

自由回答欄に寄せられたコメント（一部要約あり）

《20歳～39歳》

・加工された食品にはいろいろな添加物や保存料などが使われているが、名前を聞いたり見たりしただけではそれが何なのか、どのような作用をするのかがわからない。体に入ってどう影響するのか、食品がどのような状態になるのか、どれくらいの量が使われているのか。
この時期だと、大手メーカーのクリスマスケーキは何週間も前から出来上がっているらしいが、どれだけの保存料によって保たれているんだろうかと不安になります。”くさらない”食品の実態ってなんだろうと考えます。そういったデータがあれば知りたいと思います。（下越　女性）

・HACCP を導入することで安全・安心は確保できるかもしれませんが、いいものを作っているが導入までは至らない事業者が、導入することで品物が高くなったり、仕入れする野菜等が悪くならないようにしてほしい。
農作物が安くたたかれないようにしてほしい。（下越　男性）

・最近は放射性物質による汚染が気になります。生産地を見て購入するようにしていますが、果たしてそれでいいのかよくわかりません。
お肉とかは国産品と大ざっぱに区別されていますが、その区別のやり方も心配です。国産なら大丈夫なのか、その先まで表示していただかないと心配です。
農薬関係も、小規模にやっておられる方でも、ちゃんと検査をしていただきたいと思います。大小にかかわらず販売を目的としている人の物は、そうあるべきだと思います。（下越　男性）

・情報公開さえきちんとしてもらえれば安心できます。（新潟　女性）

・県に対して特に要望などはありませんが、個人的にアレルギー持ちなので、もっと身近にアレルギー対応食品が流通していたらいいと思います。
あと、放射性物質検査についてはそれほど気にはしていませんが、柏崎の原発のことを考えると、継続して検査を行っていた方が良いと思います。（何かあったときの基準になると思います。）（新潟　男性）

・近年の食に対する意識の高まりは、とても強くなっていると思う。”B 級グルメ”の流行や TPP を通じた国内農家への問題等、食に関するニュースが毎日のようにメディアから私たちに発せられている。食品を製造・生産する側にも当然その情報は流れていて、毎日思考をこらしながら商品や食品を作っていると思う。
私が心配なのは、いくら食の安全のためとはいえ、取組や制度が複雑になりすぎて、財力の無い中小規模の食の生産者が消えてしまうことだ。会社の帰り、屋台のラーメン屋で一杯のラーメンを食べて一日の疲れをいやす。この先、食の安全が制度化されれば、こういった屋台も消えてしまうかもしれない。個人的には、地方で作ったものを地方で食べる。輸送等の時間をかけない分、保存料や工程を減らすことができ、結果的に安全につながると思います。（新潟　男性）

・消費者の立場に立った取組みをお願いします。　（新潟　男性）

・TPP の絡みもあるので、HACCP やトレーサビリティシステムなどの認証制度を構築して、県内だけではなく、県外でも新潟県の食料品の安全・安心をアピールし、世界一うまく、良質な食べ物王国を築き、新潟を潤わせてください。海の幸も山の幸もあるので、「新潟食の繁華街」などの施設を作り、観光スポットにしてみてはいかがですか。（要望）　（新潟　男性）

・通常、食の安全・安心は当たり前のことだと思います。でも、今はそれが特別なことになってしまっている気がします。
安全・安心を求めるなら、金額の高いものを買わなければならなくなってしまっていることもあります。それではやっぱりいけないと思います。安全管理を重視というよりは、売る側の人間の心が大切だと思います。ぜひとも「食の安全・安心が当たり前、だから店頭に並んでいるんです」というようになったらいいと思います。大変なことだとは思いますが、新潟県全体で協力して、全国が見本にしてくれるような取組をお願いしたいです。期待しています！！　（新潟　女性）

・県が認証することにより食品の値上げ等が発生するなら、低所得者は購入できないし、高所得者のみ安全な物を口にすることが可能になるので、そのようなことはやめてほしいです。　（新潟　女性）

・今まで安全だと思って食べていた食品が、あるとき急に問題や事故が起きたりして、もうこれは個人の判断に任せるしかないと思うことがたくさんあります。中国の焼き鳥の問題が出て、一時避けていたときもありますが、今は平気で口にするようになりました。こうしたことの繰り返しで大丈夫かなと思いながらも・・・。
（新潟　男性）

・何事もそうだと思うが、これ以上と言うことはないと思うので、県としての考えをもっとはっきりさせるべき。私としては、今で十分満足しています。（新潟　男性）

・近年、食に関する安全性の重要度が見直されてきている中で、原発による放射性物質汚染という新たな問題が浮上し、メディアでも大きく取り上げられています。しかし、その一方であらゆる放射性物質の種類とその単位が「言葉として」目立つのが先行してしまい、各物質が体内にどれだけの量含まれると、どのような作用が起こるのかといったことが分かりづらいです。
これをさまざまな年齢ごとに有害となる数値の表として、全県民に分かるように周知を図っていただきたいです。それが分かれば、一人一人で安全の基準を確かめることができ、風評被害を防ぐことに繋がると思います。　（新潟　男性）

・魚沼の方で、農業団体が独自で民間会社や大学に調査依頼し田んぼの放射線量を検査してもらったところ、県の公表した数値よりもかなり高い値を確認したとのことで、NHK テレビの番組で報道されていました。調査ポイント数や天候、場所等さまざまな環境によって数値は違ってくるとは思いますが、もっとしっかりとした情報公開をしていかないと、国も県も悪い情報を隠蔽しているのではないかと思われてしまいます。調査時の測定高さや、どの辺りで何回調べた等、もっと分かりやすく情報開示をお願いしたいです。　（新潟　男性）

・「誰が」「どのように」「どういう手順で」がはっきりしていない。県の取組が私達に伝わっておらず、不透明なところが多くあると思う。広報等を使って毎日取組事例を見せるくらいのことをしないと誰も関心を持たないと思う。　（新潟　男性）

・この調査票の問に、「○は３つまで」等、選択する項目の数を限定するものがあったので、数を絞って記入しましたが、実際は○をつけなかった項目の中にも気になっている点が多々ありました。（特に問２，３，９）
重要だと感じている順に項目に番号をつける等（せめて５項目）、答える側の真意がもう少し伝わるアンケートであれば、より意義のあるアンケートになったのではないかと思います。（新潟　女性）

・食の安全・安心に興味がない人はHACCPなど知らないと思うから、そういう興味がない人にも知ってもらえるようにしたほうがいいと思うし、食はみんなに関係することだから、安全性などみんなに関心を持ってもらえるようにしたほうがいいと思います。（新潟　女性）

・抜き取り検査などを時々してほしい。（新潟　女性）

・子どもでもわかりやすくしてほしい。（新潟　男性）

・特に輸入食品についての安全性を高めてもらいたいです。中国産の野菜や加工食品、TPPの後のアメリカ牛肉等々。（中越　男性）

・食物（特に野菜、海産物）に放射性物質が無いことを証明する検査済のラベルが添付してあると、安心して買い物ができます。
地産地消を心掛け、野菜もできるだけ県内産の物を選んで購入するようにしていますが、ほうれん草やレタス等、県内産がなかなか手に入らない（若しくは高い）物は県外産を探します。風評を鵜呑みにしているわけではありませんが、やはり福島原発周囲の野菜を買うのには躊躇してしまい、食べたくても食べられないことが多々あるのはきっと私だけではないと思います。県内産はもちろん、地方から仕入れた物にお手数でも一つ一つ厳選な検査をしていただき、それを証明するディスプレイやラベルがあるとよいと思います。（中越　男性）

・米の有機や特別栽培もいろいろと申請や手数料がかかりすぎ。現地確認を行っているが草だらけ。申請せずに有機をやっているが、循環型農業を目指すなら、万人受けする手続きにしてほしい。（中越　男性）

・原産地から消費者までの流れを問題が起きないように管理してほしい。「HACCP」は良いと思う。（中越　女性）

・今までは「食の安全・安心」といったことを特別に意識することなく生きてきたが、これから子を持つであろう世代になっていく。新潟県でもこのような取組を進めていただけることは、その世代にとってはとても良いことだと思う。（中越　男性）

・取組に関する情報やその結果について、県のホームページだけではなく、情報紙やテレビCMなど、ホームページが苦手な人にも分かりやすくしたら、様々な人が情報を共有できるので良いと思う。（中越　女性）

・安全は全てにおいて優先してほしい。（中越　女性）

・特になし。県民の食の安全は国・県が力を入れて、県民が何も気にせず買い物できる態勢をつくってください。（中越　男性）

・福島原発事故による放射性物質の汚染が今後将来的に心配される。早めの対応、対策を望む。（中越　男性）

・今、子供達はアレルギー体質の子がほとんどです。昔はそんなにいなかったことを思うと、食生活が関係しているのかと個人的には思ってしまいます。それに加え、放射性物質による汚染まで注意して食品を選ばなければならなくなりました。輸入食品より地産地消の顔の見える農家さんからの購入が、安心して食品を買える一つだと感じている今日この頃です。
アレルギー体質の子供の割合は今と昔、又は住んでいる地域、又は食生活の違いで本当に違っているのでしょうか？もしアレルギー体質の少ない地域があって、それが食の安全と関係していることがわかるなら、ぜひ我が家でも改善したいと思う。親の一人です。これからも食の安全・安心のための様々な情報が行き届くことを期待しています。（中越　女性）

・食品添加物表示を省略しないでほしい。（中越　男性）

・認証制度の枠組みは従来のままでよいので、検査体制と罰則の強化に取り組んでほしい。行政指導や改善命令にとどまるケースが多く、食品表示偽装に対する抑止力として効果が出ているのか疑問。検査結果についても、県民が目にしやすいところで公表してほしい。（テレビ、市町村の広報誌など）（中越　男性）

・食品の情報を正確に公開すること。原材料・添加物を正確に表示すること。上記のことはできるだけ取り組んでほしいです。（中越　女性）

・放射能、大気汚染が問題視されている今、できる限りの情報を公開し、消費者が安心できるようにしてほしい。（中越　男性）

・食の安全・安心が確保できるような仕事を宜しくお願いします。（魚沼　男性）

・給食の材料や県産の野菜の安全性をもっとしっかり、みんなに分かるように示していただけるとありがたいです。よろしくお願いします。（魚沼　女性）

・産地表示、賞味期限、添加物など不正に表示しているのではと不安になります。安心して購入できるようにするための取組をしていただきたいと思います。問２の「具体的にどのようなことに不安を感じていますか」の質問で、不安だと思ったものが多かった。○は３つまででしたが、ほとんどのものに○をつけたいと思った。（魚沼　女性）

・値段が多少高くても、国産の食品をアピールしてほしい。飲食店で国産の利用率がわかるようにしてほしい。新潟県は魅力的な部分がたくさんあるので、食から攻めていくのも良いと思う。（上越　男性）

・私自身もそうでしたが、HACCP などの食の安全性に対する手法があることをあまり知りませんでした。私だけでなく、他の消費者の方でも知らない方が多いと思います。せっかくこのような良い取組があるならば、もっと身近に誰にでも分かりやすく取組や手法の意味や情報公開があったらいいなと思いました。（上越　女性）

・自身であまり考えたことはなく、知識もないため、よくわかりませんが、県民のみなさまに安全・安心な食品を届けていただけるように、さらなる取組を望みます。（上越　男性）

・HACCP をこのアンケートを通して初めて知りました。食に対する安全性は誰もが望んでいることだと思います。今後も食に関する情報に目を向けていきたいと思います。（上越　女性）

・米の生産地の上位に位置する県として、今回のアンケートとあまり関連はないのですが、米について取り組みをしていただけると、県民として安心できるというか、米の新潟県性のようなものが出せると思います。（佐渡　男性）

《40歳～59歳》

・いつも感じることは、日本はすべてに関して見た目重視の販売が多いと思う。それは食品についても言えることです。私は幼い頃から祖母に「女の子は子供を産む体だから、特に食品添加物の色素の付いたものは食べるな」と言われて育ってきましたので、現在に至るまで常に食品を選ぶときには成分をチェックします。
品物の過剰包装にしても同様。消費者はそこまで見た目を重視していません。少なくとも私の周りの人たちは。もっと原点に返って自然を取り戻してほしい。
放射能に関しては、もっと厳しく、特にこれからの世代の若者達には決して疑わしいものは口に入れてほしくないです。（下越　女性）

・国、県、市町等でその方向をアンケートで生産者、消費者の意見、考え方をまとめ、それが必要とすれば、その方向を決定とすればよいのではないでしょうか。（下越　男性）

・食品安全基準にはいろいろあると思われますが、中には外国の基準と比較して相違があるのはなぜか？おかしいと思われる。同じ人間に適用しているのに・・・。今後の基準制定においては、そのような矛盾をできるだけ排除してほしい。（下越　男性）

・TPP が始まると、遺伝子組み換えの表示がなくなるという情報がありますが、反対です。（下越　男性）

・県の取組ではないですが、食品材料などは中国産とか産地記載されていますが、店舗で調理販売している物には無いように思われる。私も安い物に走りがちですが、新潟は農業国でおいしい物を一生懸命作っている人達の安全の取組などを紹介して、消費者にもっと地産地消の意識が高まるようにしてもらいたい！（下越　女性）

・食品の安全・安心といっても、売っている商品を信じて買うしかないので、売る側の衛生管理をお願いします。（新潟　女性）

・最近のスーパーでは生産元・生産者の顔や名前を表示して販売している野菜を多く見るようになりました。生産者が見える品物は詳細な表示以上の安心感を与えてくれます。複雑なチェックシステムも重要ですが、生産者と消費者が「信頼」で結ばれるようなシステムの指導を県には求めたい。（新潟　男性）

・HACCP やトレーサビリティシステムについて改めて知りました。企業は利益を追求するほうに走りがちなので、ぜひ食の安全についてこのようなシステムを導入し、消費者が安心して食生活を送れるようにしてほしいと思いました。（新潟　女性）

・海外からの輸入食品（特に中国）について不安を持っています。信用して食することのできる仕組み作りができるとよいと思います。また、TPP 参入については、反対の考えです。（新潟　男性）

・迅速な情報公開。高度な衛生管理を全事業者に要求し、書面上は立派に食品衛生管理をしていますなどということがないようにしてほしい。（新潟　女性）

・国を全面的に信用しているわけでもないが、県独自で、また新たな基準を設ける手間はいらないのではないかと思います。事業者の方々が良心的に「よいもの」を作ってくださることを祈っております。（新潟　男性）

・食の安全は絶対に守ってほしいです。（新潟　女性）

・地産地消はとても良いことだと思います。県の支援などで、農家の販売場を増やしてほしい。今朝採った新鮮な野菜を夕食で食べたいと思います。作っている方にも消費者にも、とてもメリットがあると思います。（新潟　女性）

・新潟県がどのような取組を行っているのか、目にする機会が非常に少ない。新聞、テレビ等の多くの人々が利用するマスメディアを使ってもっと積極的にアピールしてほしい。消費者が安心を得るには、正しい知識を身に付けることも重要である。消費者教育にも力を入れてほしい。特に、まだ変な先入観を持っていない小中高校生への教育は効果的だと考える。（新潟　男性）

・安全・安心な加工食品が購入できる環境づくりをお願いします。（新潟　女性）

・特に新潟県産の農作物や加工品について安全性を高め、各県・各国の信頼を高めてもらいたい。（新潟　男性）

・消費者にとっては非常によい制度ですが、事業者にとっては大変ですね。（新潟　女性）

・食べ物の安全は、これで安心という気持ちがないまま、毎日スーパーであれこれ考えて買い物をしています。今は時節柄、放射能の食品付着が気になります。田舎で主人は毎年米を作っていますが、今より細かく土壌の放射能検査をしていただき、本当に安全な米を作っているのか確認をしたいです。
また、新潟市内のスーパーには、県内産の他は群馬、埼玉、千葉、茨城の野菜がほとんどです。とても放射能が心配です。もっとたくさんの種類を検査して、情報を公開してほしいです。「検出されませんでした」は、「低量ありましたが心配ない」ということですか？もう一つ信用できません。
食品添加物や不飽和脂肪酸等、今より厳しい基準にしていただきたく県でも積極的に勉強し、県民の健康を守るべく国に働きかけてください。（新潟　女性）

・先日、胎内市で行われた「米粉フェスタ」、次の週には新潟市の中央卸売市場で行われたメギスを使ったつみれ汁やフライ、メギスバーガーなどが販売されていたのを思い出しています。両方ともお客様の入りも大したもので、一番いいと思ったところは、ここ新潟で生産された原料、新潟で水揚げされた魚ということです。新潟は食の宝庫（海のもの、山のもの、平野のもの）だと思います。その材料を生かして食の豊かさを実感できれば、これほどよいことはないと思います。そして、行政の指導があれば「食の安全・安心」は充分確保されるのでないでしょうか。

・まさに地産地消だと思います。（新潟　女性）

・地産地消の推進。（新潟　男性）

・３．１１の震災以来、今まで以上に食の安全に敏感になりました。特に放射能の汚染は人体にかかわることなので食品には偽りなく表記してほしいですね。消費者には正確な物をお願いします。
これからの県の取り組みを期待しています。（新潟　女性）

・HACCP に関する内容を知らない人が多いと思われるため、日常の情報にもっと取り入れてほしい。（新潟　男性）

・県内の土壌放射線量を測って、数値を報じて、”食の安心安全”を知らせてほしいです。（中越　男性）

・すべての人が食の安全・安心を意識しないとダメだと思います。食品会社では偽造が行われている世の中です。気持ちもわかるけど、偽物では話にならないです。不安だと思っていると不安に感じるから気にしないようにする。（中越　女性）

・法があっても守る人がいなければ意味がない。食の安全についてはよくわからないが、新潟には美味しい食品がたくさんあるのだから、県外の人が来てもわかりやすいように、街の中にも案内を増やしては？（中越　女性）

・新潟県に住んでいて、放射性物質が今一番気になるところです。家族に安全な物を食べさせたいと思っていても、スーパーに売っている物が本当に大丈夫なのか心配です。うちはインターネットがないので、どこで情報を集めればいいのかわかりません。それにテレビでは全国ネットなので新潟県の情報が細かく出ません。もっと地元のことを地域ごとに詳しく、そして誰でも情報を得られる方法はないのでしょうか？
食に対してばかりではなく、空気中のことでも同じです。私たちは次の世代の子供を守らなければなりません。一番大切な口に入る物に対しては、県でしっかりとした安全・安心の組織を作っていただき、「ここの食品は大丈夫」という食品の提供をお願いいたします。（中越　男性）

・外国からの食品が大量に輸入されていることから、どのような安全対策がとられているか、課題はないのか、現状と今後の方策を知るためにも、積極的な広報活動を希望します。特に TPP が始まることになれば、この時期の広報は大切だと思います。（中越　男性）

・問２に挙げられているような不安を解消するための様々な安全基準は、国が設けるのが本来あるべき姿だが、時間がかかりすぎるため、地域の実情や要望などを県の方で早く汲みとり、国の決定を待っているのではなく、県として指針をつくり、対応してもらいたい。（中越　男性）

・店頭にある物は安全と思って買っております。検査の徹底を。（中越　男性）

・新潟県の食品事業所の方々は、大から小まで真面目に生産しておられると思います。私としては海外から入ってくる品物が心配です。（中越　女性）

・放射性物質の汚染はマスコミで連日報道されているが、隣県である新潟県の対応や対策、汚染状況が見えにくい。子供や孫に対して、未来の子供たちに安心できる食を提供していただきたい。（中越　女性）

・食の安全に対する認証制度は、認証する側の判定基準や制度のしくみを一般にわかりやすく認知していく必要があると思います。
問７と問８で、「わからない」と回答しましたが、制度そのものは必要と思うのですが、何かいろいろな部門や会社がそれぞれの都合によりバラバラに行っているように感じます。国としての統一見解に沿って行っているとは思いますが･･･。今回の県の取り組みは、東京都の取り組みとは何か違いがあるのでしょうか？
HACCP という言葉も認知度は低いと思います。食品業界の品質管理あるいは経営管理の人は知っていると思いますが、一般の人は聞いたことがある程度と思います。わかりやすい説明での認知活動を期待します。（中越　男性）

・輸入に頼りすぎない。（中越　女性）

・生産地や原産地が明示されると安心して購入・使用ができる。特に外国産については安全確保に努めてほしい。国内産でも、あまりに低価格で、品質等に疑問を感じるときがある。生産者のコストや品質に見合った価格設定になるよう監視をしてほしい。設備投資に余裕のない中小の食品業者に対しても、基準を満たせるよう監視をしてほしい。（中越　女性）

・検討している案は、確実に実行するようにしてほしい。（中越　女性）

・生きていくため、身体をつくるため、食事は欠かせない。放射能の問題、輸入品、天候による影響などニュースが流れるたび不安になる。安心して購入できるような表示など、もっとわかりやすくしていただきたい。（中越　女性）

・加工品の袋の裏側には、たくさんの薬品名が書かれていますが、最終的には人体に影響のない範囲で使われているのだから･･･とか国で認可されているのだから･･･というところで買ってしまいます。もし私がそこで使われている薬品の知識を持っていたなら、買わないことを選択するかもしれません。反対に心配のいらないものであると分かれば、安心して買うことができます。
生産者は添加物の利点に目を向けがちですが、それを使うことによる害の部分をもっと意識してもらうために、使われている薬品類の影響等を新聞やテレビ、チラシ等で目に触れやすくし、誰もが知識として持ちやすくしてもらえないものかと思います。
生産者と消費者とでは当然考えが違いますが、生産者も消費者であるという根本的な立場に立ち、人類の健康を損なわない物作りの視点で、生産してほしいと願っています。（中越　女性）

・食の安全・安心に対する事業者の取り組みや事件・事故・違反等速やかに、しかも誰もが理解できるわかりやすい言葉（表現）での情報の公開。（中越　男性）

・時代の流れでしようがないのかも知れませんが、あまりにも神経質な取り組みは、消費者の気持ちを煽る要因となるのでは？生産者も穏やかに出荷でき、そして消費者もあまり細かすぎないチェックで物を買い求められる方式を考えてほしいと願います。（魚沼　女性）

・食の安全について、まったく気にしていない。安全でないものは販売されていないという認識である。県内の食に今まで不安を感じたことはないし、これからもないと思います。（魚沼　男性）

・HACCP という手法があることに気づきませんでした。食の安全とはいうものの、私はずいぶん認識が甘いことに気づかされました。
テレビなどで問題が起きると、その商品だけに注目し、他の品物も同じ要因があるかもしれないことを教えていただいたような気がします。是非、全体の商品がそうした手法を通して安全な製品を販売してもらいたいものです。その前に、生産者の方が自分で作った製品に自信が持てるようになれば良いと思います。
（魚沼　女性）

・衛生管理は事業者の倫理に因るところが大きい。管理体制や教育、意識の向上等を図る取り組みも必要だと思います。（魚沼　男性）

・現在発生している放射能問題に関して、食品の部門でもう少し情報を発信してほしい。ただし、あまり不安をあおるような発信の仕方はしないでほしい。
（魚沼　男性）

・農産物に関しては、農薬の使用などについて厳しくなっており、心配することはないと思います。加工品に関して、不正が続いたこともあり、いまだに不信感がぬぐえません。衛生面等、しっかり管理してほしいと思います。（魚沼　女性）

・TPP に入れば、今の食の安全性より下がるのではないでしょうか。県とすれば、どんな対応を考えているのでしょうか？（上越　男性）

・食の安全・安心と言っているが、実際のところどのように行っているのか、その結果を知るための手段がよくわからない。強く関心のある人達は知っているのかもわからないが、知らない人が多いのでは？もっとわかりやすく、多くの人に知らせる方法を考えてほしいと思います。（上越　女性）

・健康に対する関心の高まりとともに、食品の残留農薬等の不安も高まり、安全な食品が求められています。新潟県を挙げて、環境（水、土、空気）をきれいにし、農産物の健全性をアピールしてほしいです。県内の小さな事業者でも良い取組をしているところがあれば、どんどん紹介してほしいです。
新潟県という自然豊かな土地に住めて、豊かな農産物、魚介類を食することができて、幸せだと思います。（上越　女性）

・正直言って価格が高くても安全安心な食品を購入したい。でも現状は、そうはできない。私自身、国産の食材を使った国産の食品は 99%安全だと思っています。怖いのはやっぱり輸入食品（輸入食材）。
アンケートにある HACCP 手法を輸入食品にも展開することができるのなら、本当に素晴らしいと思います。（全食品に対して）過度な検査は価格に転嫁されるので、それもどうかと思いますが、でも必要だと思うので価格に転嫁されない管理体制が必要になってくると思います。（上越　男性）

・今回のアンケートで、HACCP という言葉と内容を初めて知りました。マークも見たことがありませんでした。食事は毎日のことなので、信頼できるものを購入して食べられることが、一番安心できると思います。
認証制度の導入はよいと思います。食品の価格はどうなるのかな（高くなる？）という不安はあります。（上越　女性）

・遺伝子組換え食品や種子の輸入が懸念される。また、このことが TPP の非関税障壁として提訴を受ける可能性が考えられるため、TPP 参加への判断は、県としても慎重な態度で臨まれたい。（上越　男性）

・食の安全・安心を確保するための県の取組が、いまいち一般に知られていないと思います。これから積極的にされるかと思われますが、県知事やタレントなどを使い、マスメディアなどでアピールしていただけると、関心を持ったり、わかりやすくなるかと思います。（上越　女性）

・今、これだけ食の安全性が問われる中で、知らないことが多く感じられ、また難しい表現が増えつつあるので、もっと一般の人でもわかりやすいような工夫をお願いしたいと思います。（上越　男性）

・TPP 参加した場合、海外の安い輸入品の残留農薬、遺伝子組換えなど心配。
（上越　女性）

・信ぴょう性を担保するよう、正確な数字、検査方法等を公表してほしい。
（佐渡　男性）

《60歳～79歳》
・食料を輸入に頼るのではなく、国での自給率を高めることが大切なのではと思っております。（下越　女性）

・HACCP の制度を実行できるように監視チェックするシステムが必要。
（下越　女性）

・買い物をするとき、製造場所などの表示がない。例えば、この度のタイの水害で日本の食品会社も多数あることを知った。製造会社だけでは困る。たとえ日本の管理の下であっても、国名も必要。最近、中国産とあるものが少なくなっている。韓国産、タイ産等が多い。本当かどうか。キッチリ確認する機関があるのだろうか。
（下越　女性）

・一般に農薬なしでは野菜、果物は上手く出来ません。また、農薬を使用せず虫に食われたまま出荷しても消費者は買い求めません。それなのに無農薬を求めたり、というのは矛盾しています。今は低農薬になり、使用した薬はみな作業日誌に書いて農協の方に提出しています。安心してください。
私は野菜を愛情かけて育てています。都会に住んでいる友達、それに娘・息子達に送っていますが、本当に野菜のおいしさ・新鮮さを舌と体に覚えていて、子供達も「祖母ちゃんの野菜は本当においしい」と言って、野菜好きです。嬉しく思います。だから新鮮さを大勢の人達に提供したいです。（下越　女性）

・今回の原発の問題で新発田地区の放射線量を気にするようになった。毎日新聞等で発表しているが、今後も測定値を報告してもらいたい。　（下越　男性）

・安心して食品を選ぶことができるよう、なるべく添加物を最小限にしてほしい。正しく表示してほしいです。
厚生労働大臣承認のマークが表示されている食品は少ないようである。見た目が鮮やかで、美味しそうに見せかけている食品が多い。りんごだったらりんごの本当の味（昔食べた味）に。最近は安心して食品を選ぶことができない。国産の食品を多くしてほしい。　（下越　女性）

・基準を明確にし、抜け道のないようにされたい。企業自身の浄化能力はもとより、協会・団体等における自浄能力を高めるよう尽力されたい。　（新潟　男性）

・食の安全・安心を確保する取組について、これからもよろしくお願いいたします。情報の公開、すなわち「広報活動」の重要性をさらに認識していただきたいと思います。「気持ち」があっても「言葉」がなければ相手には伝えられませんから・・・。「広報」の基本はこんなものかもしれません！　（新潟　男性）

・売っている物は大丈夫と信頼し、購入している。食品の安心・安全管理の制度についてはしっかりやっていただきたい。　（新潟　男性）

・輸入食品は安いものが多いけれど、その管理がどうなっているか心配です。特に今後 TPP に加入すると国産食品がダメになり、外国食品が大量に入ってくる可能性があり、食の安心安全がなくなると思う。　（新潟　男性）

・国産品の食品については、これまで文句なし！に近いほどの信用を置いてきた。しかし最近、各分野の食品に渡って輸入品の増加は驚くばかりである。具体的な営農実態、農産加工の実態を知らないことによる「不安」は決して小さくはない。諸外国（殊に中国、東南アジア等々）での
１）農薬類、添加物の使用情況、２）農産（漁業含む）加工過程の衛生管理情況
はどうなっているのだろう。そして、それらを国内と同様にチェック、確認することは可能なのだろうか。これからの TPP 交渉の進展に伴って、「不安」は増すばかりである。　（新潟　女性）

・輸入品でも安全なら購入するし、価格が安ければ大いに結構である。
企業が安全第一を心得、不正な管理をしないで正しいものを作ってほしい。
（新潟　男性）

・私は食材だけでなく、食器・調理器具などにも気を遣う。自身が料理人の所為か、総菜及びレトルトなども購入は控える。所詮はほとんどが化学調味料と合成風味の味付け。食材より化学調味料及び添加物が恐い。
私は、食器及び調理器具はほとんどが陶器、金属、木工品を使い、おたま類は総てステンレス。合成樹脂製は絶対使用せず。タッパー容器は使うが、50 度以上の物は入れないし、新品はぬるま湯で成形時の剥離剤を除去して使う。合成樹脂物は高温で合成薬品が溶け出し、合成風味薬品及び化学調味料などとの複合汚染が恐いから。合成樹脂製品は使用しないし、食料品も添加物（合成物）には神経を使う。
今後は国内的には安全確保できても、対外的には TPP で自給率が 20%を切り、主食・副食等いやでも食すこととなると思う。
私は直接口に入れる食品は一流メーカー品を購入しています。味付け、添加物なども良好と思うから、多少高価でも安心料と思う。今後の輸入食品に対する検査体制の整備が急務と思う。（新潟　男性）

・農薬の基準を厳しくしてほしい。添加物はなるべく使わないように。
（新潟　男性）

・アンケートを実施してください。よろしくお願いいたします。（新潟　女性）

・生協での購入をしていますが、一様に高い。でもスーパーなどで安い価格の品物を求めると、品質を疑ってしまう。消費者はどこを基準にして求めればよいのか、矛盾が多いと思われる。（新潟　女性）

・大豆を材料とする食品すべてに遺伝子組換えの表示が少ないようです。TPP 参加の場合心配です。（新潟　男性）

・HACCP の県の取り組み方には今まで通りやっていただきたいと思っておりますが、それ以上に放射性物質による汚染に関しての食品のベクレル値の数値の計測をすべての食品に関してやってほしいと思います。公表は、基準値以下の物すべての値を表示してほしいです。数値を計測していない（表示されていない）食品は店頭に並べられないくらいに厳しく義務づけてほしいです。
現在流通している肉の表示の仕方について、県産、国産だけでなく産地表示をしてほしいです。食の安全・安心を確保する以前に、放射性物質に関して食品をどのように流通させるかも第一に取り組んでいただきたいと思っております。
（新潟　女性）

・食の安全・安心については、食品衛生法・JAS 法等により一応の安全・安心の体制はとられているものと考えられます。しかし、中国産野菜の農薬残留問題等、注意が必要なものも多々あります。
食品事業者の認証制度は、県において以前からあったように思いますが、認証後の定期的な検証はされているのでしょうか。（新潟　男性）

・亀田に引っ越して 30 年、次々と田畑が宅地になり、農業者は高齢となっている。若者は農業だけで生活できないと離れてしまう。食品の安全とともに農業をする人々を育てる政策についても考えてもらいたいと思います。（新潟　女性）

・事業者に対する安全への取組について、監督を十分に実施できる体制を構築してほしい。（新潟　男性）

・厚生労働省による食品衛生管理の認知度を高め、強化する。　（新潟　女性）

・トレーサビリティシステムの徹底。法で縛りすぎて単価アップにしないように。
（新潟　男性）

・近所の農家の話によると、野菜の出荷の際、前々日、前日に強い農薬を散布している農家があるとのことで、不安を感じます。市場に出る全ての野菜を検査できるのでしょうか。　（新潟　女性）

・JAS マーク等しか知らず、今回牛乳パックなどに HACCP マークがあるのを知りました。もっと勉強が必要と感じた。　（新潟　女性）

・品質が良く美味しい食品を摂取していきたいと思ってはいるが、それがコスト高になるのは仕方のないことだと思う。しかし、今の日本で特に子供達に安心・安全な食を確保してあげることは、製造者の倫理観に依るところが大きい。
根幹は消費者がコスト高よりも安心・安全を選択し、正直な食品を多く製造していただける取組をし、なお製造者にも自分の子供が口にしても安全な食品を、ひいては日本の子供達のためになる食品を作るという使命を持っていただきたい。
製造者の最近の方向性は、それが失われているように思っている。　（新潟　男性）

・もし様々な制度を導入するのであれば、ただ導入すればよいというものではない。導入後の事業者及び消費者への周知徹底、普及、適切な管理、情報の公開などが必須となる。以上の点を踏まえた導入を望む。　（新潟　男性）

・制度の導入が価格に跳ね上がらない最低限度でよい。　（新潟　女性）

・大きな食品会社等は HACCP の導入を大いに推進してもらいたいと思います。中小の食品会社には負担が大きすぎ、維持するのが困難だと思われます。HACCP の簡易版のようなものを作り、県知事が承認するようなシステムを作ったらどうでしょうか。
（新潟　男性）

・安全な食品のための衛生管理の HACCP、私は初めて知りました。これからの子供達、孫達のためにも製品の安全性が必要だと思います。これからは買い物も気をつけて見るようにしたい。　（新潟　女性）

・農作物等はできる限り新鮮、安全、おいしい物が手に入るように地産地消できる物、又は国内の物を望みます。
物が手に入るまで距離が遠い、時間がかかる物、特に海外から輸入する物は、農薬・食品添加物の使用が多くなるだろうし、異物混入や食中毒の心配もある。消費者が納得できるよう、検査した物を市場に出していただきたい。　（新潟　女性）

・赤ちゃんから老人まですべての人々の食生活に安全・安心を確保したらよいと思います。健康第一です。　（中越　男性）

・食の安全・安心について新潟県はいろんな角度から追求、検討していただき、全国トップレベルになっていただきたいと思います。　（中越　男性）

・こんなことは初めてなので、勉強になります。出かけたときなどは、よく見たり聞いたりしてきたいと思っています。　（中越　女性）

・県が先導して取り組んでくださることにより、生産する側（農家等）にとっても良い効果が得られ、例えばお米など安心ブランドが浸透していくことなど期待します。（中越　女性）

・この度のアンケートにより HACCP の細かな意味が分かり勉強になり、改めて意識しながらこれからも安心しながら生活できると思います。アンケートも悪くないと感じました。ありがとうございました。（中越　男性）

・中国食品の安全確保。これから輸入食品が多くなるので不安を感じています。（中越　男性）

・最近、食の安全安心について県や市町村でいろいろな問題に取り組みをされていることは本当にありがたいことです。生命を維持していくためには、食物は絶対に必要なものです。ですから安心していただけるものを提供してほしいと願っています。放射性物質に関しては、きちんと検査してほしいです。（特に小さい子どもには、成長期も含めて安全なものを安心して食べられるように。）高齢者には、加工食品などに貼ってある説明書の文字をもっと大きくし、内容などわかりやすくなるといいと思います。（中越　女性）

・原産地、製造過程（食品添加物、残留農薬等）は気になります。そういうことを含め、何も気にしないで食品をそのまま安心して食べられるようになるといいですね。これなら大丈夫という食品が増えると助かります。（中越　女性）

・私達年齢の高い人達には、横文字の少ない文章をお願いします。（中越　男性）

・今までの食品を買い求めるときは、100%と言ってもいいほど国産品を求めていましたが、原発事故以来、考えも変わってきております。最近では、時間をかけて吟味した買い物をしております。（中越　女性）

・家庭菜園で、ほぼ１年中野菜は買うことはありません。安心・安全と自負していますが、スーパーや商店の品物もそのようであってほしいと願っています。昔のように形が悪い、小さい、そんな理由で安いなら安心なのですが･･･。
毎日食べる食品は売られているものは安心・安全なものと信じて、買い物を楽しんで生活したいものです。よろしくお願いいたします。（中越　男性）

・食品製造事業者が全事業所ともハシップ制度を取り入れてやってもらえれば大変良いことと思いますが、各会社とも費用がかかるので大変と思いますので、県から経費の補助を出してやらなければならないのではないかと思います。（中越　男性）

・食料自給率を高めることが、食の安全・安心確保の近道である。
休耕田の有効利用に努力してほしい。特に山間地の棚田等の管理（ため池としての機能も）に力を入れてほしい。「地産地消」「身土不二」の考え方に基づいた農業政策を推進してほしい。（中越　男性）

・県の取り組み方には賛成です。各設問に対し無関心のような回答ばかりで失礼かと思いますが、私個人的には販売店を 100%信用しております。（中越　女性）

・県がリードして県民に伝える。テレビ、ラジオ、新聞など利用するのがよいと思います。（中越　男性）

・食の安全は今まで漠然と守られていると思ってきたが、目を向けてみればみるほど、「どうなんだろう」というような不安になる。これを機会にテレビ等の報道をより関心を持って見るようになります。より良くなるように願っております。
（中越　男性）

・安全・安心の確保は当然であるが、他国との考え方、文化の違いによる、安全が確保できないことが現実であると思う。農業県でもある新潟県は相当チェックを行っていると思うが、今以上にコンプライアンスを守ることが大切なことは理解をしているが、そのことにより食味が悪くなる可能性があるのではないか？
安全・安心で旨いものを食べたい。このことは永遠のテーマであり、今後とも努力をお願いしたい。（中越　男性）

・HACCP とかトレーサビリティシステム等、食品の安全に対する制度の説明や公開、情報発信が必要である。内容まで知らない人が多いと思う。（魚沼　女性）

・全て行政が行うことは財政赤字を生む要因になっているように思われる。県の取組には賛同いたします。（認証制度）経費は、受益者負担（購入者、事業者）に重きを置く制度を望みます。（魚沼　男性）

・23 年産米から放射能が検出されず、本当によかったです。色のない、香りのない放射能の調査は引き続き公表してもらいたいものです。
外国産の食料品があまりにも安価のため、消毒や添加物が入っていないのか心配です。ずっと国産の肉でなければと思っていましたが、原発事故によって外国産の肉の方が安全かと思うようになり、残念です。これからも県民の食の安全に努めていただきたいです。（魚沼　男性）

・問８を早急に導入していただきたいと思います。（魚沼　女性）

・輸入食品の安全を保つことに注意。小規模農業でやっています。大変です。農機具がなくて。（魚沼　女性）

・生産物に農薬等が残留しないよう生産指導と、その生産物を原料として商品化する商社・業者に対する食品安全管理の指導をもう少し強化してほしい。輸入の原料・商品等を重点指導してほしい。（魚沼　男性）

・地産地消（魚沼　女性）

・食の安全について、特に日常的な食品の安全について、必須項目は実施済との表示を店頭に掲示。　例）外国産、放射能の測定値
店員に「食品安全アドバイザー」としての教育を実施して、消費者の不安解消にあたる。（上越　男性）

・食品の地産地消と地域を元気にする取組を望みます。（上越　女性）

・諸々の検査が事業者負担になり、その反動が価格に響かないように。
（上越　女性）

・今の時点では放射性物質による汚染が心配です。充分な検査をしていただきたいと思います。（上越　女性）

・現在、飽食時代に合わせ、多種多様な食料品があふれています。そのほとんどの加工食品には添加物が含まれています。法令で許可されていることが理解できません。
加工食品の添加物の基準値の再考
・事業者には量産より製品の安全性
・消費者の安全意識の励行
・地産・地消の支援　（上越　女性）

・いつも妻と２人で買い物に行きますが、本来あまり気にしない妻ですが、地産地消、地元の方々がつくられる野菜を購入したり、原産地、賞味期限など見ながら購入しております。医食同源とも言われます。県による指導を希望します。
（上越　男性）

・”HACCP”のことばやマークなどの存在を広く県民に知らせてください！
前記の内容についても、誰にでも分かりやすいように”子どもと女性”にピントを合わせて！（専門家だけではなく）
県の取組については応援します！※今年は特に”放射能”について敏感にならざるを得ません。信用できる情報の提供をお願いします。　（上越　女性）

・個人的に野菜、豆類を購入することがあります。虫の予防などしていますが残留農薬など心配なこともあります。　（佐渡　女性）